

## 中国西部地区の医食住の動向

吉川 孝子

第19回中国共産党全国代表会議一色となった中国ですが、直轄市の重慶市は中国の西部地区では最大の関心を持っていた都市と云えるのかもしれませんが。製造企業、大学、行政は無論のこと、農村、村民も党大会の実況中継を視聴することが義務づけられました。

党大会後、行政の方はそれぞれの地元に戻り、今後の各地での経済発展、貧困格差対策（医療改善、住宅改善）に全力を注ぐものと思われます。

### 〈医療・不動産政策〉

党大会のテーマの中の1つに「国民健康政策整備」が掲げられており、2016年から「都市、農村、統一基本医療保険制度」を構築する改革が始まり、都市と農村の「住民の基本医療保険」、「新型農村協力医療」の二つの制度が統合されました。

これにより公平な医療サービスが提供されているとの事ですが、政策導入モデル地区の結果発表のみでは全体に行き届いているか否かは定かではありませんでした。

今回の政策が全面的に打ち出されることによって、病気による貧困層（重慶市の貧困家庭の1/3以上が家族の病気が原因と言われている）には生活改善の大きな助けになるものと思われます。

医療以外に庶民が大きな関心を寄せているのが住宅問題です。不動産市場にも新たな政策が次々と登場し、国内7都市で新たな「不動産市場調整コントロール政策」が打ちだされております。

重慶市では、不動産購入者は物件の「不動産権利証明書」取得後、2年以上経たなければ転売出来なくなりました。二線都市の重慶市でも不動産市場が過熱しているため、これが投資目的の購入層への対策となっております。

### 〈注目される投資物件〉

投資目的での一般住宅の購入、転売は各政策が打ち出され、価格も過熱気味であることから、富裕層が次に投資するのは「新型医療養老コミュニティ」が整ったリゾート物件です。

成都市でも2020年には、全市平均寿命が81.61歳に達すると予想され、寿命が延びて行くにつれ多種の慢性病リスクが高まることから、健康管理を総合的にサービス提供できる医療と養老を融合した施設の販売が高まっています。

医療と養老を融合させた施設は老人に大歓迎され、施設が完成すると物件を観て廻り熱心に施設のサービスに耳を傾ける老人が目につきます。

入居予約する住民の平均年齢は75歳で、知識者層、政府の管理層、企業の管理職など社会的、経済的に豊かな定年退職者層がメインです。

### 〈安心・安全な食〉

また、彼らの子ども世代20~30歳代は、自分の子どもの成長の為に安心、安全な食を求めて、海外から食材を輸入し、将来の海外生活を夢みて海外旅行に出かけている世代です。

国営企業や合併企業には定款の変更等何かと国政介入が多くなって来ている社会ですが、今後市場がどのように動くのか中国西部地区から目が離せません。